

2024年度 栃木県生協連 沖縄視察研修レポート (2024年11月14日～16日)

よっ葉生協 普及推進部 谷中

私自身、沖縄が好きでプライベートで何度か遊びに行っていました。その時はきれいな青い海や、日本と異国の文化が混ざったような街並みや景色を楽しむばかりでしたが、今回は沖縄戦地跡や米軍基地の現状をこの目で見て知ることで、私自身がキラキラした沖縄だけでなくその陰に隠れた問題や歴史をより真剣に考える良い機会になると思い参加させていただきました。

【1日目】

① ひめゆりの塔・ひめゆり平和祈念資料館

ひめゆりの塔は、1945年の沖縄戦で亡くなった女学校の生徒や教師のための慰霊碑で、1946年4月に建立された。(現在の塔は1957年6月建立)

ガイドの横田様の説明を慰霊碑の前で拝聴し、この慰霊碑は沖縄戦で最も犠牲者が出た【沖縄陸軍病院第三外科壕】の上に建てられており病院の職員や、ひめゆり学徒隊が南部撤退後に避難し、その後米軍の攻撃により多くの生徒や教師が亡くなったとのこと(240名が看護要員として動員され、136名が死亡)。壕の中は粗末な二段ベッドが並び、尿や便の片付け、食事の世話、包帯交換の手伝いなどをおこない、水汲みの際には壕の外に出ていかねばならず、常に命の危険と隣り合わせだったとのことで、13～19歳とまだ若い女学生が戦場に駆り出され、想像を絶する環境下に身を置いていたことを考えると、やはり戦争は繰り返してはならないと改めて感じる事ができた。



② 沖縄県平和祈念資料館・平和の礎 (いしじ)

沖縄県平和祈念資料館は戦争の犠牲になった多くの霊を弔い、沖縄戦の歴史的教訓を次世代に伝えることを目的とし、2000年4月に現在の場所に設立。館内には沖縄戦に至るまでの歴史や、戦争がなぜ起こったのか、住民から見た沖縄戦の実相や、証言などが展示されていた。中でも沖縄戦の体験を証言集や証言映像で見たときは悲愴の一言では片づけられない歴史の真実を痛感した。また、日本で唯一の地上戦を経験した沖縄では、軍人よりも一般住民の戦死者(10万人以上)がはるかに多いことにも衝撃を受けた。

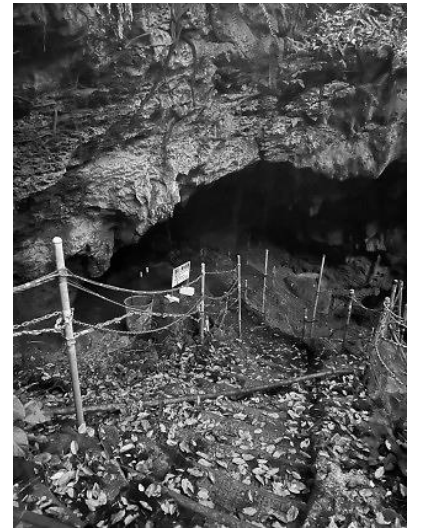
平和祈念公園内の「平和の礎」には、世界の恒久平和を願い、国籍や軍人、民間人の区別なく、沖縄戦などで亡くなった



べての人々の氏名を刻んでいる。平和の広場の中央には「平和の火」が灯されており、この火は沖縄戦最初の上陸地で採取した火と被爆地である広島(平和の灯)と長崎(誓いの火)の火を合火し、1995年6月23日(慰霊の日)に今の場所に移し灯した。沖縄戦の歴史や命の尊さを後世に語り継ぐことが今を生きる私たちができる平和への誓いなのではないか。

③ 沖縄戦跡・轟(とどろき)の壕

轟壕は内部に水が流れており、東西に約100メートル延びる巨大なガマで、沖縄戦が始まる前から周辺住民の避難壕として使用されていた。轟壕は、アメリカ軍による火炎攻撃や日本軍による暴行・射殺などの悲しい歴史があることを聞き、当時、軍民が混在した壕の中では想像を絶する恐怖や不安とともに誰一人正常な判断がつかない精神状態だったのだと思う。



※ガマ：石灰岩で自然に形成された洞窟のこと。

【2日目】

① 嘉数高台公園(かかずたかだいこうえん)

嘉数高台公園は普天間基地が一望でき、沖縄戦の激戦の爪痕が残る公園で、園内にはトーチカや陣地壕、弾痕などが残っている。また、公園の一番高いところには地球儀を模した展望台があり、世界平和の願いが込められている。展望台からは普天間基地が一望でき、米軍機の離発着も見える。※トーチカ：コンクリートで固めた防御陣地のこと。

ガイドの横田様から、嘉数は中部西海岸から米軍が上陸し、その後南下してきたところを待ち構えた日本軍と最初の大規模な戦闘があった場所とのことで、分厚い鉄筋コンクリートで出来ているトーチカには無数の弾痕があり、



鉄筋がむき出しになるほど破壊されており、当時の激しい戦闘を物語っていた。また園内には「京都の塔」と「嘉数の塔」があり、京都府出身の将兵約 2,500 名の冥福を祈るために建立された慰霊碑もあった。

展望台から見た普天間基地は町の中心にあり、周辺には学校や住宅街が密集していた。その上空を飛行するため世界で最も危険な飛行場と言われている。周辺の住人は常に危険と隣り合わせの中、基地と共存した暮らしを強いられている。

私たちには関係ないと思うのでなく、同じ日本で暮らす住人の一人としてこのような問題について考えていくことが「平和」を作っていくことに繋がっていくのではないかと感じた。

② 辺野古、大浦湾

普天間飛行場の代替施設としての辺野古埋め立てについては、平成 31 年の県民投票で投票者総数の 7 割以上という圧倒的な反対の民意が示された。しかし政府は、沖縄県が辺野古新基地建設に協力しなければ、普天間飛行場は固定化されるとしている。

政府が普天間飛行場周辺住民の生命・財産を守ることを最優先する

のであれば、辺野古への移設にかかわらず、同飛行場の運用停止を早急に実現するべきで、普天間飛行場の固定化を避け、県外・国外移設に積極的に取り組むべきだと思う。

また辺野古・大浦湾周辺の海は特異な地形で、多様な生態系が狭い水域に組み合わさる、生物多様性が極めて高い海域であるとのこと。そして沖縄は日本で唯一確認されているジュゴンの生息地で、辺野古・大浦湾はジュゴンの餌場である海草藻場が広がる非常に大切な場所である。

私自身が辺野古移設に関して一番の問題に感じたのは、新基地予定地の軟弱地盤と活断層についてで、大浦湾の海底には非常に緩く軟らかい軟弱地盤が広範囲に分布しており、さらに予定地には埋立部分と陸地の部分が混在しており、地盤が不均一に沈む「不同沈下」が長期にわたり発生する。また、基地建設予定地の直下とその近くには、2 つの断層が存在し、これらの断層が地震発生リスクが高い活断層であるとの指摘がある。

このように、様々な問題が解決されないまま日米両政府は「辺野古が唯一の解決策」として工事を強行していることに憤りを感じる。私自身も何が正解かわからないが、少なくとも沖縄県民の民意に真摯に向き合っているとは言えないのではないかと。



③ 嘉手納飛行場（道の駅）

普天間基地の 4 倍（羽田空港の 2 倍）の広大な面積に滑走路 2 本を有し、200 機近くの軍用機が常駐する極東最大の基地。町の 83%

が基地と弾薬庫として使用され、騒音や燃料流出、環境汚染も深刻な問題となっている。また、米軍航空機関連事故は基地内 676 中 627 件が嘉手納飛行場で発生しており、町民は常に危険と隣り合わせで生活している。

騒音被害においても、嘉手納飛行場周辺では、環境省の定める環境基準値を超える航空機騒音が発生しており、平均でも騒々しい工場内と同程度とのこと。この騒音による睡眠障害などの被害が住民に及んでおり、基地周辺の学校では授業が度々中断されるなど、教育面でも影響が出ている。

毎日のように昼夜を問わず戦闘機が爆音で上空を飛行し、いつ事故が起きてもおかしくない状況が日常にあることに衝撃を受けたと同時に、静かに暮らす権利さえ奪われてしまっていることに憤りを感じた。



【3 日目】

① 首里城・第 32 軍司令部壕

首里城は、中国や日本の文化も混在する琉球独特の城で、琉球王国最大の木造建造物であった。

第 32 軍は沖縄戦に備えて配置された日本軍で、首里城地下に司令部を置き戦闘を指揮した。作戦や指揮はこの司令部壕内で執られ、4 月末の米軍からの激しい攻撃によって首里は完全に破壊され、多くの住民が避難していた南部に撤退した。

この第 32 軍司令部壕で沖縄戦の戦略・戦術が練られ、沖縄の運命を決定づけた。第 32 軍は本土決戦を遅らせるため沖縄県民を盾にした「捨て石作戦」をとったとのこと。4 月 1 日に米軍が本島に上陸し、住民を巻き込む悲惨な地上戦がおこなわれ、「最後の一兵まで戦え」という命令により日本軍の降伏調印まで戦いは続いた。沖縄戦は軍人より住民の死者数が多く、県民の 4 人に一人が亡くなったとのこと。



横田様からお話を聞かせていただき、私たちは悲惨極まりない沖縄戦を決して忘れず、風化させてはならないと感じた。

敗戦に追い込まれ、壕を爆破して南部撤退したため、軍民混在の修羅場と化したことで戦没者が激増した。「軍は住民を守らない」「人間が人間でなくなる」これが沖縄戦の実相であり、壕は「負の遺産」として後世まで残し語り継ぐことが、私たちが今できる平和活動ではないか。

② 玉陵 (たまうどうん)

玉陵は琉球王国、第二尚氏王統の歴代国王が葬られている陵墓で、墓室は東西3つに分かれており、中室、東室、西室と名付けられている。2000年に世界文化遺産に登録、そして2018年には玉陵が建造物として正式に国宝に指定され、沖縄県内で初の建造物の国宝指定となった。琉球王国時代の王家のお墓ということで厳かな雰囲気の中、沖縄の歴史を感じることができた。

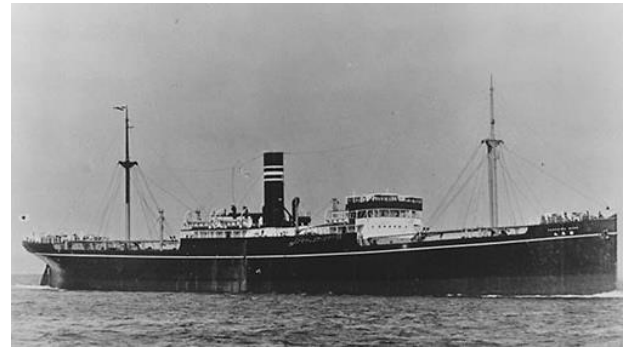
玉陵も、沖縄戦では首里城の地下に第32軍司令部が置かれたため、一帯は艦砲射撃など米軍による激しい攻撃を受けたとのこと。



③ 対馬丸記念館

昭和19年、対馬丸は学童集団疎開の子どもたちを乗せて那覇港を出港したが、米潜水艦の魚雷攻撃により沈没。乗船者1,788名のうち約8割の人々が犠牲となった。真夜中の海に放り出された子どもたちは海面に浮かぶあらゆる物につかまり生き延びようとしたが、台風の影響で波も荒く翌朝までに多くの人々が力尽き海底へ沈んでいったとのこと。その後救助された人々は、警察や憲兵から「撃沈の事実を決して語ってはいけない」という箝口令がしかれ、さらなる苦しみを受けた。

館内には犠牲となった方々の遺品や遺影が展示されており、また当時の船内の様子や出航から撃沈、救助後までが分かりやすく記録されていた。本土への疎開が決まり、まるで修学旅行にでも行くかのように喜ぶ子どもたちの素直な気持ちとその後の撃沈・漂流の惨劇の対比が胸に突き刺さる。



◇さいごに

毎日敵国飛行機が上空を飛び回り、いつ爆弾を落とされるのか怯えながら暮らしていたのは、当時全国に共通していたと思うが、中でも沖縄は特別な状況下にあったと思う。地上戦が繰り広げられ、逃げる間もなく巻き込まれ亡くなった住民が多数おり、アメリカ軍に捕まったらおしまいだという日本兵の教えを信じ、自ら命を絶った住民も多数存在した。戦争は人を狂わせ、正しい判断ができなくなってしまう恐ろしい行為であると改めて感じた。過去は変えられないが、過去の出来事を活かして未来を変えることはできる。今もどこかで戦争が続く中、世界平和を求めるのは難しい事かもしれないが、今の若い世代にもこの出来事を伝え、平和の大切さを訴えることを続けていきたい。

◆沖縄研修に参加して (よつ葉生協管理部 木村)

今回の研修を通して、私たちの暮らす日々が多くの尊い犠牲によって成り立っていると、改めて理解する必要があることを感じた。学生時代に学んできた日本が歩んだ戦争の歴史も、年を重ねるごとに少しずつ薄れていき、沖縄が持つ「魅力的な観光地」という美しいイメージに置き換えられていた。しかし、今回の研修が進んでいき、改めて沖縄が歩んできた歴史的な側面を今の私が理解することで、違った視点と視座も自分の中に生まれた。私自身子供を持つ親として、特に印象的だったのが、戦禍に子供を亡くした親の手記だった。自身の腕の中で息を引き取った子供を抱き、「どうせなら最後までこの子と一緒にいたい」という想いと、周囲に説得されて自身の手で子どもを埋葬した、という内容だった。胸が詰まる思いでその手記を読み、このようなことが世界中のどこでも起こってはいけない、という思いを持った。

しかしながら、現在も各地で紛争は起こっており、内戦や侵略は繰り返されている。日本も国防という視点では、万が一の有事の際に米軍拠点があることは無視できないメリットという見方もできる。ただ、その負担の多くを沖縄に背負わせることが果たして正なのか、そこに暮らす人たちの気持ちはどうなのか、非常に難しい課題を今なお有している。戦争のない世界であれば、武器を保有することも軍事拠点も必要ないが、それはまだまだ達成できていないと改めて感じた。

1969年にワシントンで開かれた会談で佐藤栄作首相とニクソン大統領が日米共同声明を発表。その3年後の1972年にアメリカ統治から27年で沖縄の本土復帰が決まる。容易に決定できる内

容ではないはずだが、継続的な対話を持ち、各国を代表した人物がそこに関わる人々の思いや希望を心を通わせてエネルギーを使ってきたからこそその本土復帰だったのでは、と個人的には考えている。だからこそ私が大切にしたいのは、「人と人がつながることができる」ということだと考えている。求めるものも、描いている未来が違う人であっても、肩を寄せ合い支えていける地域社会を、互助共助を前提とする生協なら作っていただけるのではないかなと思う。そのためにも、まず身近な人と心を通わせて対話をする機会を、私は大切にしたいと感じている。その小さな積み重ねで、手と手を取り合える輪を大きく広げていければと思う。とても小さいことで全てを変えられるわけではないかもしれないが、かつて戦禍で犠牲に遭われた方、自身の子供を奪われた方が心から望んだ平和につながっていくことを、私は願っている。



2025年度 業務関連委員会メンバーを募集します

●商品評価委員会

「くらら」の商評担当ページ（魚介・豆腐・惣菜・パン・菓子・飲料・調味料・石けん等雑貨）のチェックをします。商品の原料も詳しく知ることができ、商品部の担当者と直接話もできます。

調理はどなたでも簡単にできるものを交代で作りますので、気軽にご参加ください。



●産直委員会

「くらら」の産直担当ページ（野菜・果物・米・精肉・牛乳・卵）のチェックをします。商品の良さやこだわりを商品部職員から聞き、組合員の目で見てもわかりやすいように伝わっているか検討します。

お昼には商品評価委員会と一緒に、新商品の試食をします。年に数回、産地訪問し、よつ葉だよりで報告します。



- 日時：毎週火曜日 10:00~14:00
(終了時間は状況により前後します)
- 活動回数：月2回以上(面談時に要相談)
- 募集人数：若干名
- 活動謝礼：商品購入代金2000円補助+交通費
- 活動期間：2025年4月~2026年3月
- 場 所：よつ葉生協(栃木県小山市栗宮1223)、その他
- 応募条件：よつ葉生協の組合員で継続的に商品を購入している人
- 締切日：2025年2月14日(金)
- お問い合わせ：よつ葉生協 組合員活動室 杉浦
TEL 0120-07-1613
- お申し込み：QRコードから(ホームページの【イベントの申込み】フォームで受け付けます)

※くららやよつ葉だよりに、委員さんの声として感想を書いていただいたり、写真やお名前が出ることがあります。



業務関連委員会は、よつ葉生協の商品に深く関わる活動を行っています。多くの組合員さんに参加していただくため、期間は1年間で、学校が休みの時期や祝日も活動があります。

申し込みされた組合員さんへは、締め切り後に各委員会の担当者からご連絡し、担当者が面談させていただきます。申し込みフォームには必ず、**連絡のとれる電話番号**を入力してください。



参加してみませんか <お問合せ よつ葉生協 組合員組織部 TEL 0120-07-1613>

高崎 鎌田さんに聞いてみよう！ 日本人の味の基本は「みそ・醤油」



よつ葉のみそ等を作っている鎌田醤油さんに、日本の食文化には欠かせない調味料の基本やみそ作りのポイントを教えてください。昼にはみそを使った軽食を食べながら交流。みそのお土産付き！

日 時：3月8日(土) 10:30~13:30 (受付 10:00~)

会 場：高崎市中心公民館(群馬県高崎市末広町27)

参加費：組合員 大人500円 子ども(中学生以上)200円
一般 大人600円 子ども(中学生以上)300円
*小学生以下 無料

定 員：20人

託 児：なし

締切日：2月14日(金)

主 催：高崎委員会



ご意見・ご感想をお寄せください。お名前と組合員番号をご記入の上、共同購入注文書またはお手紙でお願いします。掲載の方には粗品をプレゼントいたします。※掲載するにあたって事前ご連絡をすることはありませんので、ご了承ください。

東日本大震災・東電原発事故での支援金 募金報告(1月3週分)

ご協力ありがとうございます。

組合員さんの温かいお気持ちが今週も寄せられています(単位：円)

放射能から子どもを守る募金 (900番)	3,800
震災孤児を支援する募金 (910番)	12,800
「有機農業と国産種子」募金 (920番)	6,500
合 計	23,100

共同購入注文書裏の「10品以上の記入欄」に該当番号と数量をご記入ください。WEB注文の場合は、左側【企画商品・募金】内の【募金関連】をクリック。一口100円の募金になります。

●編集・発行よつ葉生活協同組合 小山市栗宮1223

☎0120-07-1613 TEL 0285-45-9100 FAX 0285-45-9101

HP <https://yotsubacoop.jp/>

よつ葉だよりメールアドレス yotsubadayori@yotsuba-coop.jp



ホームページ



Facebook



Instagram

